

第7期科学技術・イノベーション基本計画の 検討に向けた基本的な考え方について

2024年9月
文部科学省科学技術・学術政策局

1. 科学技術・イノベーション基本計画の変遷と2035年頃の情勢見通し

◆科学技術・イノベーション基本計画の変遷

第1期：投資確保重視（17兆円）

ポストク1万人計画 等

第2、3期：選択と集中

重点分野選定、国家基幹技術 等

第4期：イノベーション政策の重視

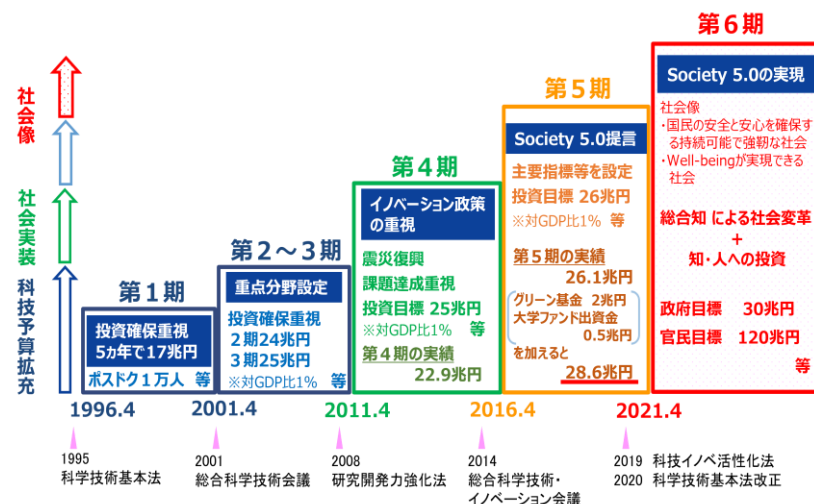
ライフ・グリーンイノベ、震災復興 等

第5期：Society5.0の提言

AI、オープンイノベ、ベンチャー創出 等

第6期：Society5.0の実現、well-being

国際卓越、博士処遇改善 等



◆2021年～（第6期）からの主な情勢変化：



◆2035年頃の国内外の情勢見通し：

- ・ AI等の技術開発の進展スピードが急激に加速
- ・ 人口減少による「労働供給制約社会」の到来
- ・ 大きな地政学的変化
→社会課題が多様化、複雑化し、予見可能性がますます低くなる

◆ Society5.0（サイバー世界とフィジカル社会を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の現状

- ・ AIなど、サイバー空間では急激な能力の進展
- ・ 一方で、人間中心社会を実現するために必須な実社会での価値創造は、現在進行形で進展しているものの、まだ道半ば



2. 第7期科学技術・イノベーション基本計画の検討に向けた基本的考え方（案）

◆基本的考え方：

- ・社会課題が多様化、複雑化し、近未来であっても予見はますます困難。
- ・そのような中、10年後、20年後を見据えると、結局、多様なSTI人材を育成するとともに、研究者が自由な発想のもと安心して研究に打ち込める環境を整え、豊富な知を生み出していくことこそが、我が国が進んでいく道。
- ・そういったメッセージを、特に今後の科学技術・イノベーションを支え、実行していく若者世代を中心に、国民に対して具体策とともに訴えるメッセージとして打ち出していくべきではないか。

◆3つの柱と具体策の主な例（具体例は継続して検討）：

研究力

- ・研究に集中できる環境の整備（研究設備・機器へのアクセスの確保、研究時間の確保等）
- ・共同利用・共同研究体制の機能強化 ・研究者の自由な発想に基づく研究を支える研究費の充実
- ・オープンサイエンスの推進 等

国際戦略

- ・経済安全保障の重要性の高まりへの対応 ・開放性を持った研究環境の重要性の再確認
- ・戦略的な国際連携、国際頭脳循環の推進
- ・国際連携の基盤となる信頼性のある研究環境の整備（研究インテグリティ、研究セキュリティ） 等

人材育成

- ・博士後期課程学生等への支援
- ・研究者・技術者の育成・確保
- ・研究開発マネジメント人材の育成・確保
- ・次世代のSTI人材の育成 等

參考資料

Society5.0

- ◆ Society5.0では、フィジカル空間のセンサーでサイバー空間に集められたビックデータがAIによって解析され、その結果がフィジカル空間（＝実社会）に高付加価値な情報、提案等によって自動的にフィードバックされる。
- ◆ それが実社会において経済発展や社会的課題解決に資する価値の創出に結びつくことで、はじめて【人間中心の社会】、【Well-beingの実現】につながる。

これまでの情報社会(4.0)



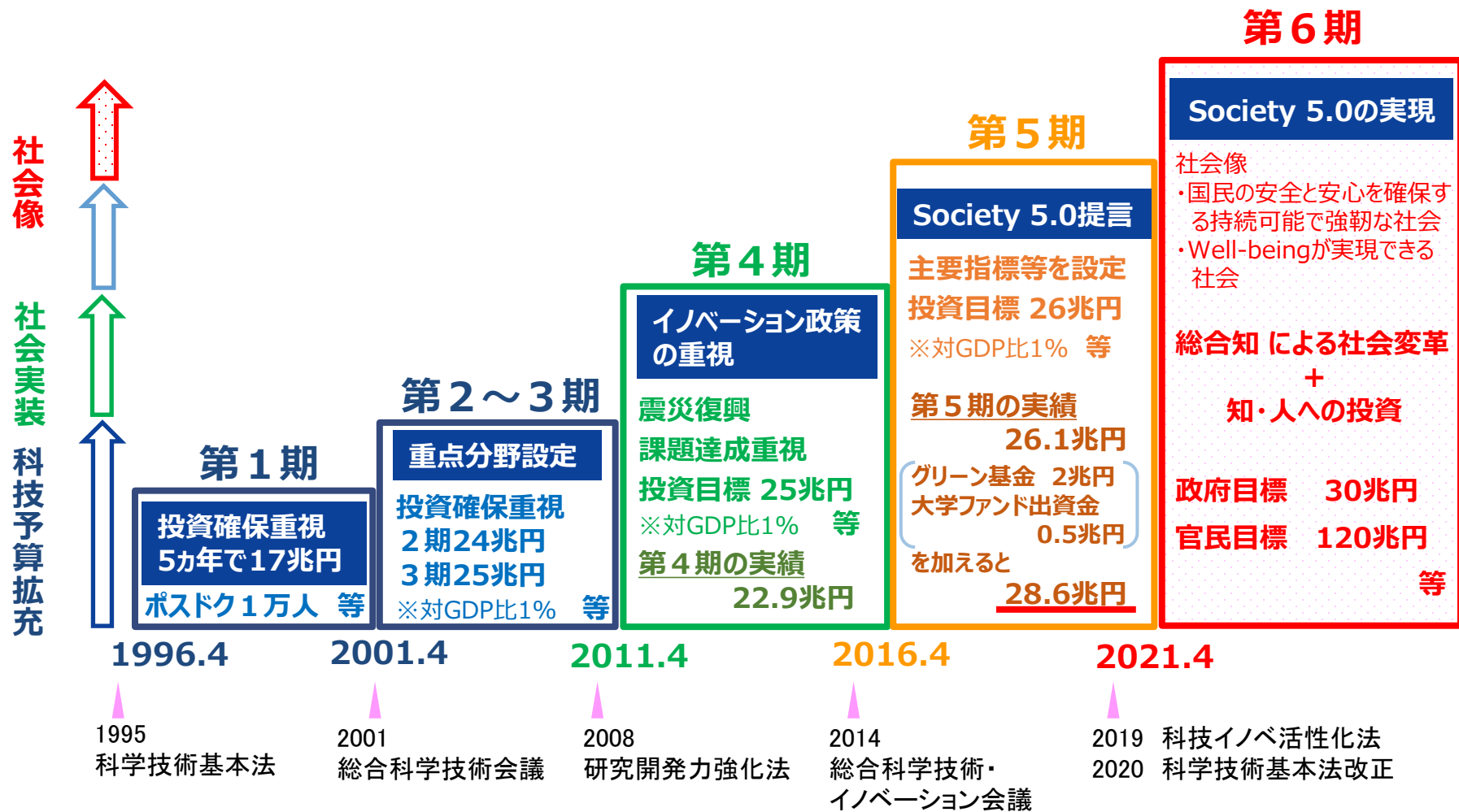
[内閣府作成]

Society 5.0



出典: 内閣府作成資料

科学技術基本計画について



「また、令和の時代の科学技術創造立国の実現に向けた長期的ビジョンを持った国家戦略として、次期科学技術・イノベーション基本計画に係る検討を年内に開始する。」